資料６

気仙沼・本吉圏域における観光の現状と課題

１　現　状

(1) 圏域内の観光客入込数と宿泊観光客数

▼気仙沼市　(①②はH30年観光統計概要，③は市役所記者発表資料による)

	H22年(①)	H30年(②)	R1年(③)	③の①比	③の②比
観光客入込数	2,540,589人	1,501,057人	2,494,000人	98.2%	166.1%
宿泊観光客数	203,287人	195,816人	243,850人	120.0%	124.5%

▼南三陸町　(①②はH30年観光統計概要より。③は速報値)

	H22年(①)	H30年(②)	R1年(③)	③の①比	③の②比
観光客入込数	1,083,630人	1,444,034人	1,216,657人	112.3%	84.3%
宿泊観光客数	237,629人	200,077人	172,152人	72.4%	86.0%

外国人宿泊者数の状況
(市町からの聞き取りによる。ただし，県全体の数字は観光庁・宿泊旅行統計調査報告から)

	平成29年	平成30年	前年比
気仙沼市	1,588人	723人	45.5 %
南三陸町	445人	1,339人	300.9 %
管内計	2,033人	2,062人	101.4 %
(参考)県全体	264,470人	402,110人	152.0 %

(2) インフラ整備の進展

⇒気仙沼大島大橋開通：平成31年４月

⇒三陸沿岸道路 気仙沼港～唐桑南(7.3km)，小泉海岸～本吉津谷(2km)：いずれも令和２年度末までに開通予定

(3) 世界的なコロナ禍による影響

⇒ホテル・旅館利用者の大幅減，教育旅行の中止，各種イベント中止など（参考５）

２　課　題

(1) 喫緊の課題 … コロナウイルス禍からの観光客等の回復

⇒３密回避が求められる中，観光の要素である他地域への移動・遊覧・飲食・宿泊の各過程において，どうやって安全・安心を確保しながら誘客を促進していくか

⇒あらたな観光のかたちへの対応

(2) より長期的な課題

① 観光客数・宿泊者数のさらなる増加

⇒圏域の人口減少率は県内でも顕著であり，このままでは地域経済の衰退が懸念

⇒そのため，新たな観光資源の掘り起こしや既存の観光資源の磨き上げによる，さらなる誘客が必要。その際は，隣接市町や岩手県際との連携による広域的魅力づくりも必要

⇒また，三陸沿岸道路の全線開通は，さらなる誘客チャンスとなる一方で，当圏域が通過点になってしまう恐れも。圏域内を周遊してもらえる魅力ある観光コンテンツが必要

② 接続交通対策

⇒県外客の仙台空港や仙台駅から当圏域へのアクセス向上が必要

③ インバウンド対策

⇒一人当たりの平均旅行支出額は外国人観光客のほうが高いが，圏域内の外国人宿泊者数は県全体の0.5%で，圏域内の宿泊観光客数に対する割合も0.5%に過ぎない（いずれも平成30年）

⇒さらなる呼び込み策とその実施のタイミングの検討が不可欠